



### 中国がわかるシリーズ 40 モンゴル軍の第一次大西征 その1

ライフネット生命保険株式会社  
代表取締役会長兼 CEO、出口 治明氏

ウゲデイは、1235 年、首都カラコルムを建設、カラコルムのクリルタイでは、[南]宋、高麗、西方への遠征が決定されました。なお、カラコルムは、匈奴や突厥の本営が置かれた土地であり、ウイグルのオールドバリの故地でもあったのです。ウゲデイは、国制の整備に努め、行政機構を整備し(ビチクチと呼ばれた多民族出身の書記官僚を育成)、十分の一税制や、駅伝制(ジャムチ)を確立しました。

駅伝を使って、大カアの指令(仰せ。ジャルリク)は文書で各地に伝達され、広大な帝国内の風通しは、格段に良くなりました。ウゲデイの許可状(バイザ)を貰えば、役人だけではなく、一般の旅行者や商人も、駅伝を利用することが出来たのです。

1236 年、ジョチの子、バトゥの率いる大軍が、キプチャク大草原の制覇(ロシア・東欧遠征)に立ちました。ウゲデイ家の嫡男グユクやトルイ家の長男モンケも副将格で参加しました。モンゴル軍は、トルコ系キプチャク族を吸収し(これによって、バトゥは、モンゴル帝国の中でも屈指の大軍団を手に入れました)、

1240 年、キエフは陥落して、全ロシアはモンゴルの手に落ちました(勇猛なキプチャク族は、エジプトのマムルーク朝を興したばかりではなく、クビライの親衛隊として中国にも雄飛し、クビライ亡き後の大元ウルスの実権者となって行きます)。同年、モンゴルに服属したノヴゴロド公、アレクサンドルは、ネヴァ川の戦いでスウェーデン軍を破り、ネフスキーの名を得ました(アレクサンドルは、1242 年、チュド湖の氷上の戦いでドイツ騎士団をも破りました)。